

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	NPO法人 コレクティブ	代表者	川原 秀夫	法人・ 事業所 の特徴	事業所は中山間地にあり、職員は地域住民として生活をしている為、利用者だけでなく町民も顔馴染みである。利用者の生活や環境なども分かる。又、地域の協力も得やすい。利用者のありのままの生活を受け止め、支援に結べる環境にある。職員の生活も受け止め働き続けられるように職員同士カバーしあっている。 在宅の支援を「通い」から「訪問」を中心に取り組んでいる。
事業所名	縁がわ小国	管理者	高野 和代		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援C	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	2人	2人	2人	0人	1人	1人	2人	2人	人	12人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今年度はミーティングの中で項目について意見交換をする時間をとり、実施することができた。</li> <li>次回についても短時間の積み重ねをすることで、スタッフ全体のものにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 短時間のミーティングと週一回のミーティングに全員参加して意見交換するようにしている。司会や記録の係を全員で回し、内容の把握や意見を出し易い様に工夫した。</li> <li>○ 11月～1月に入った職員は「できていない」に印をつけている。この取組みも利用者の事も分からなかったので意識して取り組みたいとの意見があった。</li> <li>○ ミーティングのやり方を変えた事や、若い職員が入った事で活発な内容になってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 数字には「できてない」があるが文章を読むと「できている」とおもう。集約の方法が難しく解り難い。</li> <li>○ 週一のミーティングが出来ているのは凄と思う。</li> <li>○ メモを活用した活動を続けている。</li> <li>○ 質の向上が利用者の最大のメリットだと思う。取組みに頑張っているのが分かる。</li> <li>○ ⑨「虐待が行われていない」が全員なのでこれが全体を表しているのだと思う。評価したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新人スタッフの「できていない」を「できている」に出来る様に意識を持って取組む</li> </ul>
B. 事業所の しつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「お気軽にお入りください」の張り紙については、もう少し利用者の参加も含めて、工夫したものを提示することにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 玄関先に利用者の四季折々の作品を展示と案内をしている。</li> <li>○ 国道に面した所に「縁がわ小国」の看板を掲げた。</li> <li>○ 敷地内に畑を設け、野菜や花を利用者と一緒に作業して楽しんでいる。</li> <li>○ デッキにテーブルを出して外</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 看板のアピールは必要なのは？</li> <li>○ 看板よりも皆に知ってもらうには、沢山の花を植えて寄って観たくなるような所にしては？花を植えるときは手伝いをします</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国道に面した土手に花を植える。</li> <li>○ 地域交流祭にもう少し工夫して参加を呼び掛ける。</li> </ul>

		を眺めながら食事を楽しんだ。		
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域にも少しずつ広がっている。小規模多機能の内容、役割を知ってもらえるように、日ごろの取組みや支援に意識をもって行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中学生、高校生にインターンシップの受け入れ。保育園児との交流会、地域の婦人会、パッチワーク、切り絵、詩吟等の趣味の会が交流室を活用している。</li> <li>○ お話読み聞かせの会、ギター演奏会のボランティアの申し入れも来ている。</li> <li>○ 地域交流祭を家族会、運営推進委員の協力を得ながら続けている。</li> <li>○ 公立病院の医師や掛かりつけの薬剤師を講師に迎え研修会を行っている。</li> <li>○ 地域の医療、介護、行政のネットワークの一員として取組みに参加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小規模多機能の役割や活動は分かってきたが、一般の人には分かり難いので、民生委員の会合や、3社合同会議の時等に説明をすればいいのでは訪問活動の回数や内容など、他事業所と違うサービスを伝えたらいいと思う。</li> <li>○ 地域交流祭は計画の段階から声をかけてもっと任せたら良い。係り決めをすればやり易い。</li> <li>○ どこにも行けないお年寄りはいるのでアピールしても良いのでは。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ スタッフ全員が小規模多機能を知り、説明や相談に乗れるようにする。地域の中で住民としても積極的な関わり、事業所の職員として役割を果たす</li> </ul>
D. 地域に出向いて本人の暮らしをささえる取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 利用者の支援内容は地域性、家族関係、近所の人間関係などでケースバイケースになると思うが、今までの暮らしてきた地域の中でのつきあいを継続できるような視点を持ち続ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 通い中心から訪問重視にサービスを変えたことで生活の様子、地域との関わり、繋がりが分かってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 近所との繋がり、認知症の理解、関心がない、反対に入り込まないで欲しい、などの問題がある。家族からの依頼がないと気になっても声を掛けづらい。(民生委員)</li> <li>○</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 認知症サポーター養成講座等を利用して認知症の人の困り事や住民としての手助けの仕方と一緒に考える</li> <li>○ 訪問を重視した支援をしているが実態を家族や行政に伝える</li> </ul>
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 運営推進委員の方々にも実際の利用者の様子や職員のケアの様子も見てもらい、運営推進委員の皆さんを通して、小規模多機能の紹介などを、地域の人たちにもしていただけるよ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 推進委員も3年間、事業所の関わりや事例報告で理解も深まり、会議中に名前を出して相談される事も出てきた。情報も多く交わされ実際に協力して頂いた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 美容院を経営しているので地域の人たちからの情報が入る利用者も来られるので協力したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 職員とも交流をより深める。</li> <li>○ 推進委員の地域、所属を縁がわ小国の広報誌に掲載する事を了解していただいた。</li> </ul>

	うにする。			
F. 事業所の 防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 避難訓練の時は運営推進委員の方にも期日を案内する。</li> <li>○ 災害時には、こちらの地域交流室を利用してもらうこともできる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年2回の避難訓練と、職員が個別に救命講習を受講している。</li> <li>○ あんしんネットワークや会議の際に交流室の利用の件を伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 何かの事態が起きた時は是非お願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 避難訓練や防災訓練を事業所だけでなく行政などの主催の時も参加する</li> <li>○ 敷地内や施設内の点検をする。</li> </ul>